

## モスクワ稲門会

モスクワ稲門会について

About

モスクワおよびロシアに在住する早稲田大学卒業生の親睦を深めるため、2007年に設立された。会員数は58名(2011年8月現在)。通常の年間4回の定例会だけでなく、ソフトボール、ゴルフ、ボーリングの早慶戦を行い、合同懇親会も含めモスクワ三田会との交流も活発に行っている。ちなみに、早慶戦は2011年7月に行われたソフトボール対抗戦まで

8連勝中。家族同伴でのシャシリク大会(ロシア風バーベキュー)なども定期的に開催し、アットホームな雰囲気を大切に活動を続けている。また、帰国者による東京支部も設立している。

モスクワの魅力

Charm

1991年末のソ連崩壊後の改革により民主化へのプロセスを歩んでいるロシアは、ヨーロッパ大陸とアジア大陸に広がる広大な領土を有し、面積約1,707㎞<sup>2</sup>で世界最大であり、日本の国土面積の約45倍。

ロシアの産業は情報化時代の流れに乗り遅れはしたが、エネルギー部門や基礎産業部門には見るべきものがあり、地下資源の点では世界有数の大国である。現在国際原油価格の高騰のため、産油国であるロシアは大きな恩恵を受け、また国内個人消費にも牽引され、ロシア経済は復活を遂げている。また、今後も成長は当面継続すると予測されている。

そのロシアの首都モスクワは、歴史的に芸術・文化のさまざまな分野において、すぐれた数々の作品を生み出した。そのなかでもバレエは文句なしに世界の最高峰に見るチャンスも多い。また近年、国際的に見ても最高級クラスのホテルや飲食店、近代的なオフィスビル、通信システムや国際法律・会計事務所など、グローバルなビジネスのためのインフラがよく整備された都市に変貌しつつある。

## 会長メッセージ

BRICsの国であるロシアは、最近でこそ日本の新聞・雑誌等でさまざまな報道がなされるようになり、情報が豊富になりました。しかし、まだ多くの方がいろいろな意味でどちらかというとながティブなイメージをもっておられると思います。確かに、長く寒い冬、街中で英語が通じない(英語標識もほとんどない)、レストラン等のサービスが悪い、警察組織の腐敗等々、数え上げればいろいろと問題はあるのですが、モスクワを例にとると、4年前に赴任して以降、生活のしやすさという面では徐々にではありますが改善されているように感じます。

ただ、モスクワでリラックスできるかというと、なかなか難しいという方が多いのが実情です。そんななか、モスクワ稲門会を立ち上げたいと渡部俊英さん(1992年理工)がリーダーシップを発揮され、皆様の協力のもとで2007年12月に第1回稲門会が開催されました。以降、会を重ねてすでに16回を開催するまですべてです。皆様生活面、また仕事面でいろいろと苦労されることが多いなか、この時ばかりは同門ということで年齢も関係なくお互いに情報交換をしたり和気あいあいと楽しんでいます。活動は皆様集まっの飲み会、夏にはモスクワ川周辺でのシャシリク(肉等の串焼きで非常においしい)大会を開いています。また、三田会と定期的に開催しているソフトボール、ボーリング、ゴルフといった競技会では、目下負けなしの8連勝と、連戦連勝中です。

前任の湯川氏から会長職を引き継ぎすでに1年以上たちますが、ますます若手が増え、稲門会でエネルギーをもらっている気がします。まだまだ若いモスクワ稲門会ですが、いつまでも活動が続くよう、微力ながら盛り上げていきたいと思っています。

中井英人(1976年理工、78年工研修、東芝CIS社)



三田会との交流も盛ん



モスクワ大学

モスクワ稲門会Webサイト

http://mcwtomon.exblog.jp/

## 会員からのメッセージ

●2011年4月、事務所開設に合わせて単身赴任した私は、6月中旬にモスクワ稲門会の存在を知り、仲間に入れてもらいました。1人事務所ゆえに悶々ともがきながら過ごしていた生活は、稲門会に参加して以来ガラッと変わって、シャシリク大会、早慶ソフトボール大会と、生活に張りをもたらす集まりに、これからのモスクワ生活が楽しみになってきています。

卒業して21年、あまり早稲田を意識することなく社会人生活を送ってきましたが、稲門会の集まりで久しぶりに校歌、「紺碧の空」を歌うと、何だか若いころの力が蘇ってくるようです。とりわけ、モスクワ稲門会の若い世代の元気よさ、将来を担うワセダマンが確実に巣立ってきている姿を直接目にし、何とも心強く、自分もまだまだ頑張らなきゃいけないという気持ちにさせてくれます。

これから初めてのモスクワの冬を迎えますが、明るく乗り切れるよう、稲門会を盛り上げていきたいと思っています。

小坂 明(1990年政経)



シャシリク



シャシリク大会ではスイカ割りも

●2007年、秋が深まりつつあるモスクワに着任。心細くも当地日系企業の集まりでご挨拶したその直後、「早稲田出身ですね?」といきなり声をかけてくれた千代ちゃん。そしてモスクワ稲門会設立の獅子、巢山先輩、伊東先輩と永久幹事なべちゃん。駒井先輩もいたかなー。みなさん、ニコニコ笑顔で迎えてくれました。

思い返せば結構しんどかった赴任当初、2007年12月に稲門会が発足し、交流を深めるなかで、勇気づけられ、時に叱咤され、諸先輩、後輩みなさんの温かさを感じて突き進むことができました。言語の壁、生活やビジネスの不便さ、さまざまな困

モスクワ稲門会の人びと

People

難にぶつかる毎日の中で、この「つながり」は何より貴重。まだまだお世話になりそうです。

あれからもうすぐ4年。集り散じて人は変れど(ヒーロー涙)、モスクワ稲門会はますます勢力拡大中。で、そういえば、世界制覇はどうでしょう、永久幹事?

小林由紀(1999年教育)

●モスクワ稲門会立ち上げ幹事の松下さんから2009年に幹事業の一部を引き継いで、はや2年。引き継ぎ当時約40名だった在ロシア会員数はみるみる増え、現在は58名となっています。モスクワでの日系企業のプレゼンス拡大ぶりがうかがえますが、この日本人にとってタフな街に送り込まれている企業戦士たちのうち、やはりタフな稲門の占める割合は高いのではないかと感じています。

定例会・各種スポーツイベント等を通じて、老若男女、業界も出身地も違う人びとと触れ合う機会は何物にも代えがたい刺激を受ける場であり、また、それでもどこか絆を感じ初対面でも簡単に打ち解けてしまえるのは、同じく「メルシー」や「一休」の飯で育った仲間だからでしょう。時折開催される早慶戦の盛り上がりも、現役学生時代を思い出す白熱ぶり。三田会の家内と帰宅後局地戦(飲みつぶし合い)に発展することもしばしばです。

在学中は学業とは疎遠だった私ですが、モスクワ稲門会での幹事業を通じて、少しでも母校・諸先輩方に恩返しができるれば幸いです。引き続きモスクワの夜を明るく彩る稲門会を盛り上げていきたいと思っています。

山中健太(2003年法学)



早慶ソフトボール対抗戦